

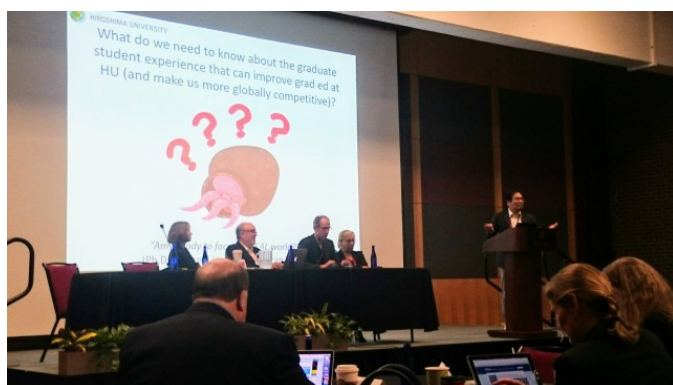
SERU リサーチシンポジウム報告

参加者：渡邊 聡 副学長（大学経営企画担当）
安部 保海 特任助教（大学経営企画室）

米国ラトガース大学（ニュージャージー州立大学）にて、6月15日～16日の二日間の日程で開催された SERU リサーチシンポジウムに参加し、SERU の現状及び各参加大学の SERU への取り組み状況について情報共有を行った。

6/15 の午前中は SERU-International コンソーシアムのビジネスミーティングが行われ、アジア、ヨーロッパ、南米からの参加大学の関係者が出席し情報共有が図られた。同ミーティングでは、前回（2015 年度）及び今回（2016 年度）実施した SERU 学生アンケート調査の各大学の回収率が確認され、継続的な課題として回収率向上にむけた各大学における取組・方策が議論された。また SERU 学生アンケートの大学院版である gradSERU の進捗・取組状況の報告もあり、特にヨーロッパの大学関係者からの高い関心があった。さらに SERU コンソーシアム事業の P.I.である Dr. John A. Douglass（カリフォルニア大学バークレー校）から、今年 6 月に広島大学にて SERU コンサルタンシー（ピア・レビュー）が実施されたことについての報告があった。

6/15 の午後から 6/16 にかけては、SERU-AAU（Association of American Universities）コンソーシアムと合同でのリサーチシンポジウムが開催された。同シンポジウムではアメリカ国内大学における SERU の現状についての報告に加え、SERU の調査結果を踏まえた、学生の大学での活動状況や、多様な学生の受け入れ環境の分析など多岐にわたる内容についての報告があり、活発な討論が行われた。



また二日目午前中に行われた大学院教育の国際比較をテーマとしたパネルディスカッションでは、Dr. M. van der Wende（オランダ・ユトレヒト大学）、Dr. A. Breiter（ドイツ・ブレーメン大学）、Dr. R. Gibbs（カナダ・トロント大学）、Dr. J. Stoddart（アメリカ・ミシガン州立大学）とのパネルで、本学副学長の渡邊聡教授が日本の学位授与システムの抱える課題点について口頭発表を行い、オーディエンスを含め、他大学のパネリストとの意見交換が行われた。